



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
HP <http://miyagiart.com/>
E-mail miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 吉田利弘

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がりつつ纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

収支にメス、「赤字」打開へ 新年度事業計画、収支予算 理事会で慎重に審議、可決

令和5年度の事業計画案と収支予算案などを審議する4年度第5回理事会が3月20日、協会会議室で開かれ、支出カットに切り込んだ「緊縮予算」を可決、承認した。各部との調整で事前の判断、決定を強いられた。

財政状況が厳しさを増している現実を踏まえた対応だ。新型コロナウイルス禍で一部の事業実施が見送られ、支出が抑えられたのに伴い、剰余金が発生しているが、実質は赤字基調が続いている。正会員がピーク時、平成



16年度の2481名から令和4年度末の1780名まで、3割近くも減少。主な収入源である会費が大きく目減りしているためだ。

芸術祭の共催団体による負担金は概ね横ばいで推移しており、財政を支える賛助会員も維持が精いっぱい状況。会員数の増加は難しく、従来の事業を継続するのであれば、支出を身の丈に見合った規模に抑え込むことは避け難い。

芸術祭等の事業維持を優先する形で、今回、「はなやま」発行回数半減に踏み切った(8面に関連記事)。情報量の減少は、速報性に優れる協会のホームページ(HP)の積極活用で補う。講師料や共催金等、収入可決、承認された。

この日の会議では、名誉会員の推薦(2面に関連記事)、正会員の入会(3面に関連記事、名簿)議案も審議、原案通り、可決、承認された。

芸術祭の各事業に伴う会議費の見直しも進めた。収入の確保にも努め、公募事業の応募料を値上げする。ただ、出品のハードルが増し、応募者数の減少を招く恐れもあり、収入の増加を確約し得えない。

協会の維持、発展は、会員数の確保に左右される。高齢化に伴い、毎年、一定数の退会者が出るのは必然で、入会の促進と退会の抑制が鍵となる。同日の理事会でも、会員増と退会減に向けた方策について意見交換。基本的方向として、「加入しやすく、かつ活動を続けやすい方法」の検討を急ぐべきとの考えでほぼ一致した。

令和4年度の事業運営及び決算について監査する監事会が4月17日、協会会議室で開かれた。岡本勝、佐藤光郎両監事が事業報告や重要な決済書類を閲覧し、事務局員に説明を求めるとして監査を進め、「適正」と認定した。その他として、①本年の第60回県芸術祭及び明年の「芸術協会創立60周年記念事業」の企画立案をめぐり、指導力を発揮し

の当てのない支出だけの事業については、一律20%削減とし、芸術祭の各事業に伴う会議費の見直しも進めた。

加盟する「東北・北海道芸術文化団体協議会」が本年、創立50周年を迎え、7月14日に仙台国際センターで記念シンポジウムが開催される。成功を図りたい。

体制で臨む決意を固める大切な場にも位置付けられる。会員多数の参加で、機運の盛り上げを図りたい。

監査結果、「適正」と認定 監事、記念事業で要望も

てほしい②主管として臨む「東北・北海道芸術文化団体協議会」の「創立50周年記念シンポジウム」の対応に万全を期してほしいの2点を要望した。

定時総会、6月4日開催 シンポ控え、講演会は見送り

本年度は芸術祭が60回の区切りとなる。記念事業こそ、60周年の次年度に行われるが、弾みへの期待がこもる。展示会場の都合で、前年度は異例の7月開幕を強いられたが、秋開幕の通常年の日程に戻る。改めて運営の質が問われかねないだけに、万全

令和5年度の定時総会が6月4日、仙台市青葉区の市福祉プラザふれあいホールで開催される。議案は4年度事業報告と決算審議の1件。役員の変更もなく、「静かな総会」となりそうだが、会員数の減少傾向をはじめとする協会の現状について、また記念事業が相次ぐ状況への認識共有を図る、重要な機会となる。

に向けて、予算等の環境整備や諸準備に集中するため、恒例の講演会の開催を見送った。本年度は芸術祭が60回の区切りとなる。記念事業こそ、60周年の次年度に行われるが、弾みへの期待がこもる。展示会場の都合で、前年度は異例の7月開幕を強いられたが、秋開幕の通常年の日程に戻る。改めて運営の質が問われかねないだけに、万全

シンポ開催準備、着々と 芸文協、事業計画を確認 映像参加の取材、撮影も

東北・北海道芸術文化団協議会（芸文協）の創立50周年を記念するシンポジウムの開催準備が本格化している。3月24日、事務局ベースで芸文協に加盟する7団体を結んで、事業の内容と収支の概要を確認し、シンポ成功に向けての協力を申し合わせた。トークセッションで事例報告の内諾を得たものの、シンポ当日、先約があり、同席できないゲストについては、近く事前取材を実施し、映像参加の形を整える予定だ。

シンポジウムは、芸文協創立50周年という大きな節目に際し、芸術文化（アート）と社会の未来を考える中で、新たな振興・発展の弾みにするのが狙い。芸文協が初めて取り組む大型の記念事業で、既にテーマを「アートの時代だ！ 芸術文化が拓く、わたしたちの（社会）未来図」に設定し、講師の山口周氏（著作家、パブリックスピーカー）の演題も「美意識」が広がる社会彫刻の可能性」に決まっている。美学に明るい戦略家である山

口氏の基調講演でアートの役割・価値をめぐる総論的な提起を行い、続いてトークセッションを実施。「健康」「企業」「地域」の三つの側面で、基調講演を具体的な実践に落とし込み、掘り下げながら、取り組みと感性、美意識との関りについて、3氏が現場から事例報告する。

当日、足を運べないヤマガタデザイン代表取締役の山中大介氏については、5月22日、吉田利弘理事長らが本社のある鶴岡市に出向き、活動現場を視察する

とともにインタビューを実施し、トーク映像にまとめる。シンポの席上、理事長の補足的な解説を交えて、スクリーンに映し出す。（公財）音楽の力による復興センター・東北顧問（前代表理事）の大澤隆夫氏、Reborn Art Festival（RA F）実行委員会事務局長の松村豪太氏についても、トークの構成をめぐり、事前の調整を進めた。山口氏らに7団体代表を加えたパネル討論でも、事務局会議の場を通じて、意見交換に関する大枠的な方向を確認した。

東北・北海道の7県道、仙台市をはじめとする行政、河北新報社を中心とする報道機関等への協力依頼も進めた。事業予算については、芸文協加盟団体の負担金をベースに、公益財団法人宮城県文化振興財団等の助成が確定。金融機関、商社、農協関係団体等の協賛も内定しており、用途が立ちつつあるものの、完全には収入を確保しきれない状況にある。賛助会員らの企業を中心に、さらに協賛金の提供を呼び掛ける。

名誉会員に翁さん、鎌田さん 業績・貢献顕著、理事会で承認

3月20日の理事会で、彫刻部の翁観二さん（東京都足立区）と、茶道部（裏千家）の鎌田宗州さん（仙台市）が名誉会員に推薦され、満場一致で承認された。本人の承諾により、4月1日付で尊

4〜20年に評議員を、20年以降は参事を務めている。当協会の発展に尽くしたほか、宮城の彫刻界を長年にわたり、けん引し続けた。宮城県芸術選奨、県教育文化功

労者表彰の栄に浴している。鎌田さんは、平成18〜26年に理事、26年以降は参事を務めて

ある。会場ホールの収容能力は約1000名と大きく、見合う参加者の確保が欠かせない。シンポジウムは、芸術文化に関連する団体、施設、芸術文化の愛好者はもとより、宮城県、仙台市をはじめとする行政、芸術系や事業構想系の学部を持つ大学等の教育機関から企業等のビジネス関係者らまで、幅広く関心を持たれ、学びの期待できる内容となる。こうした特長は参加を促す大きなアピール材料。今後、チラシの制作、配布等を通じて広報活動を徹底し、周知を図ることになる。

称が確定し、正式に就任した。翁さんは、社団法人当時の平成

宮城県の重鎮として、多くの催事に携わるなど、伝統文化である茶の湯の普及・振興に貢献している。

いずれも3月時点で協会参事に処遇されており、法人運営規程に基づいて「満85歳に達した」のを機に、協会発展への功績顕著として、今回、新たに名誉会員に推挙された。4月1日現在、総数は17名となった。

何より、多くの会員の参集が頼り。自身はもとより、友人・知人らにも声掛けを行って、ホールを埋め尽くしたい。

新部長

【彫刻部】赤井靖武

【彫刻部】永倉香名子

【絵画部】安達秀子、柴田治、畑中良二、渡邊昭砵

新副部長

【彫刻部】日下育子【書道部】大友きか子、木村笹園、島津和子【洋楽部】猿橋麻里子、前嶋淳、三塚典子【文芸部】水戸一志【写真部】阿部和美、林茂

【新運営委員】

【新運営委員】

令和5年度新入正会員名簿

Table with columns: 部門 (Department), 氏名(本名) (Name), 住所 (Address). Lists members across various departments like 絵画部, 書道部, 洋楽部, etc.

の体制強化につなげていきたい。の取り組みをアピール、さらなる新入会員の勧誘に努め、協会



ムページ（HP）で、本選はヴァイオリンは予選も。行った（ヴァイオリンは予選も）。ただ、コロナ禍の下、積極的な

ようこそ、皆さま 新入会員、当初は46名

令和5年度、新入会員が3月、4月の理事会で承認された。総数は7部門の46名。本年度、前年度と同じ50名を見込んでい

対応万全、参加者を確保 第43回音楽コンクール

第43回音楽コンクールが2月、3月、日立システムズホール仙台で開かれた。洋楽部の主管で、第59回宮城県芸術祭の一環。落

ピアノ、ヴァイオリンの2部門で、予選は2月19日、本選は3月19日にピアノ、26日にヴァイオリンの日程で行われた。応募者はピアノ152名（前年160名）、ヴァイオリン78名（同51名）。2部門総計で前年を上回った。ヴァイオリンが応募クラスを細分化、初級をA、Bに分けて、参加しやすさを増した効果が表れた形だ。

Table for Violin Department (ヴァイオリン部門) awards, listing grades (初級A, 初級B, 中級, 上級) and winners.

Table for Piano Department (ピアノ部門) awards, listing grades (初級A, 初級B, 中級A, 中級B, 上級A, 上級B) and winners.

Table for Special Awards (特別賞) listing winners and their categories.

イオリンのみ当日、会場でも発表、表彰式を実施。ピアノは予選同様、翌日、HPで行った。子どもたちは、緊張しつつも

「レベルの向上が目覚まされた。」「レベルの向上が目覚まされた。」「レベルの向上が目覚まされた。」

令和5年度事業計画

(1) 宮城県芸術祭の開催【公益目的事業1】

本協会を中心とし、宮城県、仙台市、河北新報社、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、公益財団法人宮城県文化振興財団、公益財団法人仙台市市民文化事業団の8団体共催により、本年度60回目となる宮城県芸術祭を開催する。

芸術祭開催期間は9月23日(土)の開会式(会場：せんだいメディアテーク)から、12月1日(金)の表彰式(会場：ホテルメトロポリタン仙台)を経て、翌年3月17日(日)の音楽コンクール本選(ヴァイオリン部門)までの期間となる。各事業の詳細は次のとおり。

事業種別	事業名	期 日	会 場 等
展示関係事業	写 真 展	9月23日(土)～9月26日(火)	せんだいメディアテーク
	彫 刻 展	9月23日(土)～9月26日(火)	せんだいメディアテーク
	絵 画 展	9月30日(土)～10月3日(火)	せんだいメディアテーク
	華 道 展	10月7日(土)～10月10日(火)	せんだいメディアテーク
	書 道 展	10月7日(土)～10月10日(火)	せんだいメディアテーク
工 芸 展	11月8日(水)～11月12日(日)	TFUギャラリーミニモリ	
演奏関係事業	長 唄 演 奏 会	10月15日(日)	トークネットホール仙台
	音 楽 会	10月28日(土)	日立システムズホール仙台
文芸関係事業	文 学 散 歩	10月上旬	岩手方面
	「宮城県文芸年鑑」発行	10月15日(日)	600部発行
茶 会	文 芸 祭	10月28日(土)	東京エレクトロンホール宮城
人材育成事業	茶 会	10月中旬	未定
	フォトサミット in Sendai 2023	9月23日(土)～9月26日(火)	せんだいメディアテーク
	絵画展(公募の部)	9月23日(土)～9月26日(火)	せんだいメディアテーク
	彫刻公募展	9月23日(土)～9月26日(火)	せんだいメディアテーク
	第43回音楽コンクールガラコンサート	9月24日(日)	日立システムズホール仙台
	第44回音楽コンクール予選	2月11日(日)	日立システムズホール仙台
第44回音楽コンクール本選	3月10日(日)・3月17日(日)	日立システムズホール仙台	
	写真セミナー	10月中旬	芸術協会事務所

※ 例年と同様に仙台三曲協会定期演奏会、洋舞公演、歳末たすけ合い各流舞踊大会を芸術祭参加行事とする。

(2) 芸術文化の振興に関する展覧会、講演会、研究会、発表会などの主催又は後援【公益目的事業2】

多くの県民に本協会の会員による芸術作品や音楽会などを鑑賞する機会を提供することを目的として、次のとおり各事業を実施する。

事業種別	事業名	期 日	会 場 等
鑑賞機会提供事業	第60回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展	11月22日(水)～28日(火)	東京エレクトロンホール宮城
	みやぎミュージックフェスタ	未定	未定
人材育成事業	(日本舞踊協会宮城支部共催) 第3回宮城県各流子ども舞踊大会	7月29日(土)	仙台市福祉プラザ
	(河北新報社共催)河北工芸展継承 第4回杜のみやこ工芸展	11月8日(水)～11月12日(日)	TFUギャラリーミニモリ
	書道部による県内小中学校の講師派遣事業	11月～2月	県内小中学校
	(宮城県文化振興財団共催)定禅寺フォトコンテスト	12月上旬	東京エレクトロンホール宮城
後援事業	(仙台三曲協会共催)子供の邦楽コンサート	未定	未定
	本年も「河北書道展」等に賞状や賞金等を提供するなど、本協会に申請のあった作品展や演奏会に対し、後援名義の承認、必要に応じた賞状や賞金等を提供する。(令和4年度承認実績：60件)		

※ 伝統文化体験事業として本協会と河北新報社との共催で茶道の普及啓発を目的に開催している杜の都大茶会はコロナウイルス感染等の影響を鑑み中止とする。

(3) 国内及び国外との芸術文化の交流【公益目的事業3】

国内外の芸術総合文化団体との相互交流を図ることを目的とし、交流協議及び事業を次のとおりに実施する。

事業種別	事業名	期 日	会 場 等
東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業	東北・北海道芸術文化団体協議会創立50周年記念シンポジウム	7月14日(金)	仙台国際センター

※東北・北海道芸術文化団体協議会交流事業：本年度担当幹事地区は宮城県。

(4) 会員の資質向上のための研修会等の実施及び調査研究並びに出版物の刊行など【他事業】

本協会会員や多くの県民に参加の機会を提供する研修事業と、協会の活動状況等の発信及び会員同士の情報交換を図るための発行物の刊行を次のとおりに実施する。

事業種別	事業名	期 日	会 場 等
会員研修	茶道部研修茶会	5月21日(日)	輪王寺
発行	機関紙「はなやま」発行	5・11月	年2回発行

※ 総会時に実施してきた講演会は諸般の事情により中止とする。

令和 5 年度正味財産増減予算書

(令和 5 年 4 月 1 日～6 年 3 月 31 日)

科目	公益目的事業会計					他事業会計	法人会計	合計
	公 1	公 2	公 3	共通	小計			
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用益	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
受取入会金	0	0	0	500,000	500,000	0	500,000	1,000,000
受取会費	0	0	0	11,090,000	11,090,000	1,686,000	7,484,000	20,260,000
事業収益	7,511,000	1,790,000	0	0	9,301,000	0	0	9,301,000
受取補助金等	200,000	130,000	0	0	330,000	0	0	330,000
受取負担金	14,033,000	500,000	0	0	14,533,000	0	0	14,533,000
受取寄付金	111,000	40,000	0	0	151,000	0	0	151,000
雑収益	280,000	0	0	1,000	281,000	0	0	281,000
経常収益計	22,135,000	2,460,000	0	11,592,000	36,187,000	1,686,000	7,984,000	45,857,000
(2) 経常費用								
事業費	30,041,500	4,572,500	1,674,000	0	36,288,000	1,686,000	0	37,974,000
管理費	0	0	0	0	0	0	7,519,000	7,519,000
経常費用計	30,041,500	4,572,500	1,674,000	0	36,288,000	1,686,000	7,519,000	45,493,000
当期経常増減額	△ 7,906,500	△ 2,112,500	△ 1,674,000	11,592,000	△ 101,000	0	465,000	364,000
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	7,906,500	2,112,500	1,674,000	△ 11,228,000	465,000	0	△ 465,000	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0	364,000	364,000	0	0	364,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	47,248,644	47,248,644	0	0	47,248,644
一般正味財産期末残高	0	0	0	47,612,644	47,612,644	0	0	47,612,644
II 指定正味財産増減の部								
一般指定財産への振替額	△ 10,000	0	0	0	△ 10,000	0	0	△ 10,000
当期指定正味財産増減額	△ 10,000	0	0	0	△ 10,000	0	0	△ 10,000
指定正味財産期首残高	110,000	0	0	0	110,000	0	0	110,000
指定正味財産期末残高	100,000	0	0	0	100,000	0	0	100,000
III 正味財産期末残高	100,000	0	0	47,612,644	47,712,644	0	0	47,712,644

公益目的事業会計事業費 (A)	[全体] 経常費用計 (B)	公益目的事業比率 (A/B)
36,288,000	45,493,000	80%

60周年記念事業実施

「検討会議」設置へ／準備作業、本格始動

当協会は明年の創立60周年記念事業の対応に向けて、本格的な検討作業に着手した。10年刻みの区切り際に際し、その都度、記念事業を展開してきており、実施の方向は事実上の既定路線。前回、50周年の大きな節目と同列に位置付けられない上、協会を取り巻く環境にも違いはあるものの、過去の取り組みを参考にしながら、計画を練り上げていくことになる。

況等の当協会の現状を踏まえた適正な内容をより吟味することが求められる。前例を一つの目安としながら、実情に合わせ修正を図る必要があるためだ。常任理事会で、そうした認識を共有。3点セットでの実施を想定し、時期と規模を慎重に見極める方向性を確認した。当協会の歩みを記録として残し、未来への足掛かりにもなる「史誌」の刊行は、自らの存在アピールや支援団体等への返礼の意味もあり、外し難いとした。県民・

市民らへの感謝の機会とし、絆の保持、強化につなげ得る「ふれあい広場」的な催事も望ましいとの意向。記念式典については、簡素化も議論されている。費用対効果を追求する中で、日程として「記念イベント」は芸術祭の開幕時に、「史誌」と「記念式典」は芸術祭の表彰式に合わせ刊行・実施する案などが浮上。予算は新型コロナウイルスで事業未済の形で残り、県に對し費消の方向として周年記念事業に拠出する方針を示しており、一定額を充てることになる。また、各部コロナ禍の追求とともに、コロナ禍の下、一部事業で足踏みを強いられたことを

教訓に、求心力を高める会員の啓発活動や入会促進への対応、ポストコロナとして一般参加企画等の再始動、再構築を意識すべきとの認識も示され、3事業

への取り込み方を検討する。今後、現状と先行きを両にらみしつつ、タイムリーで組織の現状に合った事業化に向けて、検討会議や連動する部長会議で協議を重ねていって、年内には事業内容を確定させる方向だ。

芸協初共催で活気 子供の邦楽コンサート

第9回子供の邦楽コンサートが3月25日、仙台市戦災復興記念館記念ホールで開かれた。仙台三曲協会が主催で、実行委員会を組織し実施。伝統文化の継承、次世代育成につながることから、当協会が今回初めて共催した。出演は小中高校生の30人ほど。県内で箏、三絃の邦楽を学ぶ子どもたちが集まった。演奏曲目は「花詩集」「二つの個性」「ひぐらし」「春の光」「飛躍」など9曲。いずれも確かな音色を響かせ、日頃の練習ぶりを映し出していた。

重ねた稽古の成果を精いっぱい披露した子どもたち



事、監事による「記念事業検討会議（仮称）」を設置し、具体的な内容を協議。部長会議との連動、内容調整を通じて、事業計画を確定させていく流れだ。30、40、50の各周年記念事業を振り返ると、概ね「記念式典」の開催、「記念誌（周年史）」の刊行、「記念イベント（芸術ふれあい広場）」の開催で構成。今回も考え方の基軸に据える。ただ、減少傾向をたどる会員数の動向や厳しさを増す財政状

況等を踏まえた適正な内容をより吟味することが求められる。前例を一つの目安としながら、実情に合わせ修正を図る必要があるためだ。常任理事会で、そうした認識を共有。3点セットでの実施を想定し、時期と規模を慎重に見極める方向性を確認した。当協会の歩みを記録として残し、未来への足掛かりにもなる「史誌」の刊行は、自らの存在アピールや支援団体等への返礼の意味もあり、外し難いとした。県民・

市民らへの感謝の機会とし、絆の保持、強化につなげ得る「ふれあい広場」的な催事も望ましいとの意向。記念式典については、簡素化も議論されている。費用対効果を追求する中で、日程として「記念イベント」は芸術祭の開幕時に、「史誌」と「記念式典」は芸術祭の表彰式に合わせ刊行・実施する案などが浮上。予算は新型コロナウイルスで事業未済の形で残り、県に對し費消の方向として周年記念事業に拠出する方針を示しており、一定額を充てることになる。また、各部コロナ禍の追求とともに、コロナ禍の下、一部事業で足踏みを強いられたことを

教訓に、求心力を高める会員の啓発活動や入会促進への対応、ポストコロナとして一般参加企画等の再始動、再構築を意識すべきとの認識も示され、3事業

への取り込み方を検討する。今後、現状と先行きを両にらみしつつ、タイムリーで組織の現状に合った事業化に向けて、検討会議や連動する部長会議で協議を重ねていって、年内には事業内容を確定させる方向だ。

ミュージックフェスタ 栗原市で多彩に盛大に

音楽を通じて地域文化の発展を図る「みやぎミュージックフェスタ2022 inくりはら」が3月12日、栗原市の栗原文化会館で開かれた。当協会と栗原市、市教育委員会の主催で、

改修を終えた大きなホールが重厚で迫力ある響きに包まれた。栗原市でのフェスタは9年ぶり。市内で活動する音楽団体と芸協オーケストラの共演、地元音楽家と芸協会員のコロナ演奏がメインで、小学校の鼓笛隊から合唱連盟有志、大正琴や三味線のグループ、太鼓集団、管弦楽団、吹奏楽団ら、地元の音楽愛好家が「総出演」。芸協もピアノ連弾、木管五重奏、弦楽アンサンブル、ピアノとオーケス

トらの名演奏で応えた。演奏曲目もクラシックからポップス、民謡、童謡までバラエティーに富み、幅広い音楽の好みに対応した。出演者全員による「栗原の詩」の演奏・大合唱で、大盛り上がりの中に音楽イベントを締めくくった。年度末の慌ただしい時期ながら、ホールには700名を超える大勢の市民らが集まり、当協会の全面支援で実現した「栗原の音楽」を味わい尽くしていた。

舞台を踏んだ子どもたちは充実の表情。会場には保護者や指導者らが駆け付け、期待と緊張のうちに成果の発表を見守った。関係者の一人は「コロナ禍にめげず、地道に取り組んだ様子がうかがえた」と目を細め、今後への手応えを感じていた。

支援に感謝 使命を完遂

「令和5年度、当協会の活動を支えていただく賛助会員の皆さまをご紹介いたします。大半、継続される方々で、改めて心より感謝を申し上げますとともに、会員一同、さらなる精進を重ねて、宮城県の芸術文化の向上に尽くす決意を新たにいたしております。コロナ禍が尾を引き、地域経済の先行きが不透明さを増し、社会が閉塞感を払拭できない中、芸術の社会貢献の在り方が問われています。国際情勢も不安定化が加速し、混沌・混沌の時代にあつて、芸術の役割を深く掘り下げ、機能の充実、強化を図っていかねばなりません。そうした状況下で、本年は加盟する「東北・北海道芸術文化団体協議会」が創立50周年を、明年は当協会創立60周年を迎え、記念事業が続きます。変わらぬご支援を糧に、地域の芸術文化の振興という使命の完遂に取り組んでまいります。引き続き、よろしくお願ひ申し上げます」 (吉田利弘理事長談)



第59回宮城県芸術祭開会式 (令和4年7月9日)

賛助会員の皆さま (50音順、敬称略)

◇団体

アサヒビール株式会社南東北支社▽アストモスエネルギー株式会社東北支店▽株式会社アネステイ▽石堂建設株式会社▽株式会社イヤサカ仙台支店▽SMBC日興証券株式会社仙台支店▽ENEOSグループ株式会社東北支店▽ENEOS株式会社東北支店▽ENEOS株式会社東北支店▽ENEOSTレーディング株式会社▽株式会社オカムラ仙台支店▽株式会社河北新報普及センター▽株式会社カメイファーマシー東北▽株式会社北日本銀行仙台支店▽キリンビール株式会社東北統括本部▽クリエイトプランニング株式

社▽クリオン株式会社東北営業所▽コクヨ東北販売株式会社▽株式会社五葉商事▽株式会社佐浦▽株式会社サンエーテック▽有限会社三帰興産▽株式会社七十七銀行▽医療法人社団初心会社のホスピタル・あおぼ▽医療法人社団心々堂高橋眼科クリニック▽住友金属鉱山シボレットクス株式会社▽株式会社清月記▽有限会社清泉▽株式会社仙台銀行▽一般社団法人仙台市医師会▽損害保険ジャパン株式会社仙台支店▽株式会社ダイフクプラスモア▽竹田公認会計士事務所▽株式会社タツノ東北支店▽ダンロップタイヤ東北株式会社▽株式会社電通東日本▽東京海上日動火災保険株式会社▽株式会社東北プリント▽同和興業株式会社▽トキコシステムソリューションズ株式会社東北支店▽学校法人常盤木学園▽凸版印刷株式会社東日本事業本部▽株式会社南北社▽ネットヨタ仙台株式会社▽株式会社バイタルネット▽株式会社橋本店▽ハルコムユニケーションズ株式会社▽株式会社バンザイ仙台支店▽株式会社ビー・プロ▽株式会社藤崎▽富士ファイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社宮城支社▽ふじや千舟▽ブ

リヂェストンタイヤソリューションズ▽株式会社宮城地区本部▽株式会社マイナビ宮城支社▽有限会社松尾弦楽器▽魅知国定席花座株式会社BBI▽三井住友海上火災保険株式会社▽株式会社三井住友銀行東北法人営業部▽三井住友信託銀行株式会社仙台支店▽株式会社三菱UFJ銀行仙台支店▽三菱UFJ信託銀行株式会社仙台支店▽宮城日トヨタ自動車株式会社▽宮城日産自動車株式会社▽未来テクノ株式会社▽社の都信用金庫▽矢崎エナジーシステム株式会社▽株式会社ヤマハミュージックリテイリング仙台支店▽株式会社ユニグラフィック青葉画荘▽有限会社緑香園茶舗▽輪王寺株式会社ル・プロジェ

◇個人

青木正▽麻生靖子▽安孫子南美▽井ヶ田製茶株式会社▽梅屋楽器店▽株式会社えかきや▽鹿野英生▽川上伸昭▽川上浩▽菊田潔▽ギャラリーSHUGEN▽小室照枝▽齋藤裕子▽佐々木康晴▽佐藤進▽白鳥良一▽鈴木真由美▽高橋正衛▽丹野俊一▽千葉昭吾▽中国料理東龍門▽西井陽子▽西川玉林堂▽畑山みさ子▽原也寸志▽晩翠画廊▽眞砂宏▽松枝稔▽水野喜重子▽村松秀

雄▽守山邦楽器▽よろづ園茶舗

シンポ参加のお誘い

当協会が加盟する「東北・北海道芸術文化団体協議会」が創立50周年を迎え、7月14日に仙台国際センターで、記念シンポジウムを開きます。賛助会員の皆さまには、入場整理券を送らせていただきます。興味深い内容になるはずですので、多数のご参加を賜りますよう、ご案内いたします。

第8回文芸作品公募

作品募集

毎年恒例の文芸作品公募の応募作品を募集いたします。

【募集部門・応募締め切り】

・一般の部…8月4日(金)
・ジュニアの部…8月31日(木)

【ジャンル】

詩・短歌・俳句・川柳・エッセー

【応募方法】

(大学生・一般)
作品を郵送の上、応募料を指定口座へ入金

(小・中・高校生)

必要事項を記入の上、指定の応募フォームから送信

詳しくは協会ホームページをご覧ください。

機関紙発行、年2回に 経費削減、一部HPで代替

機関紙「はなやま」について、従来の年4回発行を原則2回に改める。赤字傾向が続く財政の健全化に向けて、経費削減に切り込むことにした。広報の意義を軽んじるのではなく、後援情報など一部を協会のホームページ(HP)への掲載に切り替えることで一定程度、情報量の減少を補えると判断した。今後は速報性に優れたHPの積極活用を知恵を尽くす。

発行は5月、11月を基本とする。ただ、パソコン、ネットに不慣れな会員も少なくないと思われる、その対策として、2年に一度の役員改選年には、総会後の8月を目安に、臨時号を発行するなど、必要な情報が全ての会員らに届くよう適切に対応する。

現在、季節ごとの年4回の発行に伴って150万円、160万円を充てている経費が、年2回となれば、ほぼ半減

事務局から

◆会費納入のお願い

新年度を迎えましたので、令和5年度会費の納入をお願い致します。

自動振替の会員は、今年5月1日(月)に引き落としを行いましたので、指定口座をご確認願います。

郵便振替をご利用の会員は、同封の振替用紙で5月31日(水)までに納入願います。

なお、現在郵便振替をご利用の方は、事務処理上の都合により、できる限り自動振替(手数料は協会が負担)への切り替えをお願いいたします。手続きにつきましては、

◆ご寄付のお願い

事務局にご相談ください。

当協会では企画事業等に充当する寄付金を随時募集しております。寄付金の拠出は所得・税額控除の対象となります。

詳しくは事務局までお問い合わせください。

〔寄付振込口座〕

仙台銀行本店
普通口座
口座名義 宮城県芸術協会
取扱店 201
口座番号 5222554

することになる。会員に新たな負担を強いることなく、支出を切り詰めることが可能で、何より重要な事業予算の確保を図る苦肉の策と受け止めてほしい。

いずれ、協会運営の赤字の常態化を放置しては、組織の維持すら危うくなる。運営の安定性保持に向けて、各部の事業予算策定においても、支出の見直しに努めてもらっており、収支均衡予算の編成に向けた支出カット策の一環でもある。

なお、不都合の発生等があれば、その状況を見極めつつ、発行の在り方を改めて検討するなど、適宜、柔軟に対応する。

協会HPはこちら



アドレス：
<http://miyagiart.com/>

事務局日誌

会務報告

- ・【第5回理事会】3月20日
- ・令和5年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
- ・名誉会員の推薦について
- ・正会員の入会について
- ・【第1回理事会】4月24日
- ・令和4年度事業報告及び収支決算について

会員の入賞・入選など

- ・令和5年度定時総会の開催について
- ・正会員の入会について
- ・特定費用準備資金等取扱規程の制定について

(事務局に連絡があったもの)

- ◇第54回ローマン美術展
- ▽新人賞 熊谷治子(HARCO KUMAGUYU)
- ◇第49回近代日本美術協会展
- ▽新人賞 熊谷治子(HARCO KUMAGUYU)
- ◇2023独立春季新人選拔展
- ▽前田さなみ賞 大坂祥春
- ◇第7回新日春展
- ▽入選 天笠慶子、奥山和子、新藤圭一、小泉百合子、熊谷治子(HARCO KUMAGUYU)
- ◇第84回河北美術展
- 〈日本画の部〉▽河北賞 新藤圭一
- ▽宮城県知事賞 荒井静子▽一力一夫賞(小品枠) 中邨圭子▽一力次郎賞 阿部志宇▽東北放送賞 石堂智子▽奨励賞(小品枠) 谷地森真理子
- 〈洋画の部〉▽JAL賞 松宮榮典▽青森県知事賞 峰岡順▽秋田県知事賞 後藤俊彦▽福島県知事賞 伊藤信義▽一力一夫賞(小品枠) 森下雪子▽仙台市教委賞 佐治紅実▽一力次郎賞 鈴木千津▽東北放送賞 及川幸子▽渋谷栄太郎賞 齋藤正和▽東北福祉大学賞 鈴木雅之▽審査員奨励賞 大坂祥春▽奨励賞(小品枠) 堀内洋子

受贈書

『句集 山巔』(佐々木三太郎)、

『非懷紙連句集 水母からの便り』(一般社団法人連句協会)、『福島民報百三十年史』(株式会社福島民報社)

書道部	謹 弔	嶋山 秋玲 殿	令和4年8月16日
写真部		渡辺 義昭 殿	12月
茶道部(裏千家)		岡崎 宗澄 殿	12月30日
文芸部(短歌)		野村 和代 殿	令和5年2月6日
茶道部(宗徧流)		桜田 宗和 殿	3月16日

※「後援」は今号からホームページでの掲載となりました。月1回ごとに更新してご紹介いたします。

編集後記

今号から「はなやま」が変わったことにお気づきでしょうか。最大の変更はそう、編集後記の新設です。発行が年2回に半減し、紙幅に限られるのを機に、新味を出そうというわけですね。ネット時代に呼応、ホームページの積極活用を進めても、情報量の減少は否めず、多少なりともスペースの確保へ好評のコラム「けやきの譜」を打ち切ることに。代わりに「はなやま」が、本欄はまさに窮余の一策。小気味のよい小ネタを練り出すつもりです。ご了承ください。